

萩市立明倫小学校 校長室だより

学校教育目標： 人としての生き方を学び、共に高まり合う子どもの育成

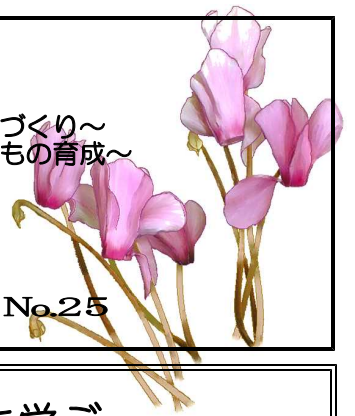
チャレンジ目標： ～明倫小A：気持ちのよい7mあいさつ～

～明倫小B：友だちを思いやる美しい心と校舎内外の美しい環境づくり～

～明倫小C：目標や志をもち、達成に向けて進んで取り組む子どもの育成～

伸びる力

2019, 12, 20(金) No.25



ノーベル化学賞受賞者 吉野 彰 さんに学ぶ 一冊の本「ロウソクの科学」との出会いから



先日、吉野 彰さんが2019年のノーベル化学賞を受賞されました。日本人としては27人目のノーベル賞受賞者となりました。吉野さんがノーベル化学賞を受賞されたのは、私たちにとって欠かすことのできないリチウムイオン電池の開発によるものです。リチウムイオン電池は、スマートフォンや携帯電話、パソコンなどの電子機器に使われている超小型で、繰り返し充電でき長時間電気を供給できる「夢の電池」です。この電池が開発されたから手軽に持ち運べ、小

型化になったのです。

この吉野さんがインタビューの中で、こどもの頃のことを聞かれ、一冊の本との出会いを述べられています。次のようなインタビュー内容でした。

○小学生の頃は、どんな子どもでしたか。

→自然の中でセミやトンボ、カブトムシを追いかける、ごく普通の子どものでした。転機になったのは、小学校4年生の時、女性の担任の先生から薦められた『ロウソクの科学』という本です。「ロウソクはなぜ芯が必要か」「なぜ、炎は黄色いのか」など、「おもしろいなあ」と思いながら読みました。その本の入口に、化学やものづくりに興味をもったのです。

○子どもたちへのメッセージをお願いします。

→小中学生のうちには大切なのは、興味をもてるものを見つけることです。そのためにいろいろなことを試し、刺激を受けてください。私の場合は、それが『ロウソクの科学』という本でした。

もしも、失敗が続いたとしても焦らないでください。ノーベル賞受賞者がそのテーマの研究を始めた年齢は、平均37.1歳。私も33歳の時でした。いくら科学が発展しても世の中にはわからないことがまだたくさんあります。いつかきっと「これは！」というテーマが見つかります。それまではたくさん失敗をしてください。失敗から学んだ経験が、きっとあなたを成長させ、困難を乗り越える力になりますから。

吉野さんを科学者へと導いたのは、一冊の本との出会いでした。一冊の本との出会いが吉野さんの人生を形作ったといってもよいのではないのでしょうか。

間もなく冬休みです。クリスマスプレゼントやお年玉をもらえる人も多いことでしょう。これがゲームや遊び道具になるのではなく、今年は、一冊でよいので、親子でお気に入りの本を買って、しっかり熟読してみたいかがでしょうか。そうすれば、二週間の冬休みがとても有効に活用できます。ひよっとしたら、その本が、人生を変える一冊になるかもしれません。よい本との出会いを期待しています。

つながりを大切にした「挨拶」で「感謝」の気持ちを！

りんごのようにほおをそめた子どもたちの顔が輝き始めるのは、二学期の終業式前の頃です。子どもたちは、学期末のテストやお楽しみ会の準備などで、いつになく気ぜわしげに見えましたが、しっかり目標を見つめて、それに向かって急いでいるようにも感じました。いよいよ二学期の終了とともに、令和元年が終わります。

さて、来週から冬休み、先ほどの子どもの顔の輝きはここに原因がありますし、その中身が、また輝きをさらに増加させます。日本でも多くの人々が味わうクリスマスのケーキやプレゼント、それに続くお餅つき、年越しのそば、除夜の鐘、初詣、新年のおせち、そしてお年玉。「長期の開放感」「食欲」「金銭欲」「集団の一員であるという喜び」等、ここには、たくさんのお楽しみや喜びが集中しています。それが冬休みの特色です。

しかし、このような中でも忘れてはいけないことは、「人と人とのつながり」を大切にした「挨拶」で「感謝」の気持ちを表すことです。冬休みは、親戚の方々をはじめ、いろいろな方々と出会う機会も多くなります。明倫らしさである相手を意識した「気持ちのよいあいさつ」で日頃の「感謝」の気持ちを表してほしいと思います。



今学期も明倫小学校の子どもたちは、保護者や地域の方々をはじめ、多くの方々にお世話になりました。子どもたちの学習や安全、学校の環境整備、学校行事への参加・お手伝いなど多くの面でかかわっていただき、いろいろなことを教えていただき、支えていただきました。本当にありがとうございました。

さて、間もなく冬休みに入ります。気持ちや生活がゆるみやすくなりますが、規則正しい生活習慣、食育、金銭教育、家のお手伝い等、しっかり習慣づけるスタートにして欲しいと思います。家族のみんなが互いに忙しい毎日

だと思いますが、子どもたち一人ひとりに応じた仕事を決め責任をもたせ、よい習慣を自らつくる機会にしてほしいと思います。

本年も、いろいろなことで大変お世話になりました。ご家族おそろいで、輝かしい新年をお迎えください。

「味覚」の授業を行いました（4年生）

12月5日と6日に4年生が味覚の授業を受けました。講師は、萩市の食を支える会の会長である野村京子先生です。3, 4年生の味を感じる力「味蕾」が発達するこの時期に食べ物の基礎となる「4つの味（塩味、酸味、苦味、甘味）」と「旨味」の五味を学ぶことで、子どもの味覚や感性を鍛え、心を育てることをねらいとして取り組みました。

子どもたちは、実際に五味を体感しながら「旨味」の存在を実感したようでした。今回の学びは、5年生の家庭科学習「ごはんのみそ汁」の和の出汁食文化「旨味」への関連があります。また、この授業にはPTAの厚生給食部の方々にもお手伝いいただきました。野村先生、PTA厚生給食部のみなさん、ありがとうございました。



※ 学校経営・校長室だよりへの保護者・地域の皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。
年 組 児童氏名（ ）

.....

.....

.....